

情報社会における〈包摂〉と〈排除〉

大黒岳彦

- ・『情報社会の〈哲学〉』終章の若干の補足。
- ・〈包摂/排除〉というアングルから、AI、ロボット、ビッグデータ、倫理を革めて捉え直してみる。

1. 「包摂・排除」の概念史

社会政策的文脈

- ・社会的「排除」(social exclusion)
「身分」「出自」「身体的属性」「障害」「国籍」「疾病」「貧困」「犯罪」「薬物常習」「未就学」「ジェンダー」「性癖」などの理由で「就業」「福祉」「高等教育」場合によっては「生存」といった社会的制度や機会から排除される事態
- ・社会的「包摂」
安倍第三次改造内閣スローガン「一億総活躍社会」
→菊池桃子「社会的包摂」(social inclusion)
この場合の「包摂」は「被〈排除〉者の社会的参加の促し/活用」の意。
社会的「排除」→社会的「包摂」

…両者は独立した事象であり、また「排除」が「包摂」に時間的に先立つ

文化人類学的文脈

- ・第三項「排除」による共同体の凝集性の実現
「排除→統合」というメカニズム。但しこれは社会政策の場合のような時間的順序ではなく、論理構造。
王権の逆立、王と賤民という「聖—穢」両極の共同体からの排除によって共同体の安定性が保たれる、という文化人類学的な知見。ex.小学校のクラスにおける「人気者」と「いじめられっ子」。

社会哲学ないしルーマン

- ・情報社会における〈包摂/排除〉は上のような概念・事態とは原理的に区別される。
- ・人為→システム…線引き(demarcation)人為的にではなくシステムによってなされる。〈包摂/排除〉の区別は、ちょうど〈システム/環境〉区別に見合っている。
- ・したがって、包摂=排除。〈包摂〉と〈排除〉は同じ事態の裏表。〈包摂〉があるところには必ず〈排除〉が伴う。逆もまた真。

ex.「経済システム」…貨幣という成果メディア使用による経済的行為/経済的人格のシステム〈包摂〉は、その裏側で貨幣の不保持者/不使用の〈排除〉を同時に惹き起こしている。⇒「稀少性」の成立。

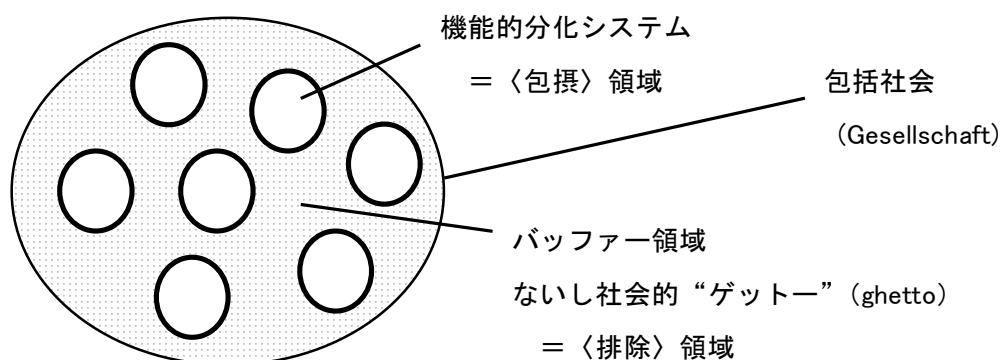
貨幣における「sym-bolisch」(シンボルの〈統合=包摂〉)な側面と「dia-bolisch」(悪魔的〈分離=排除〉)な側面との同居。

・以上のような事態をあらゆる機能的分化システムのメディアは伴う。

2. システムリソース問題としての〈包摂/排除〉

社会システムと〈包摂/排除〉

- 機能的分化…法・政治システム、経済システム、学問システム etc.
- 規模的分化…包括社会、組織、インタラクション、抗議運動 (Protestbewegung)



ここで重要なことは、

①〈排除〉領域は機能的分化に伴う領域であるにもかかわらず、機能的に分化していない点。すなわち、ある人的リソースに関して〈包摂〉が多重化すると裏腹に、〈排除〉も多重化するが、〈排除〉に関しては機能的な区別がなく、無差別に〈役に立たない〉という認定が多重化されてゆくだけ。②こうした機制によって、システム「内部」に“外部”が生み出され、システム境界が二重化される。

したがって、機能的分化の中でリソースの分化が生じる。

- リソースの〈包摂〉——構成——→ 人格 (Person) …ロボットでも可
- リソースの〈排除〉——構成——→ 〈孤=個〉人 (Individual)
=Homo sacer (nach G. Agamben)
=das Man (nach M. Heidegger)

ビッグデータ・AI と〈包摂/排除〉

・線引きの自動化…以上のような線引は、決して特定の意図・恣意に基づいた人為的操作の結果ではない。それは飽くまでもリソース群から収集された匿名化された「データ」群 (=ビッグデータ) を人工知能が分析した結果に基づく“客観的”指標に基づいている。

3. 〈包摂/排除〉と倫理

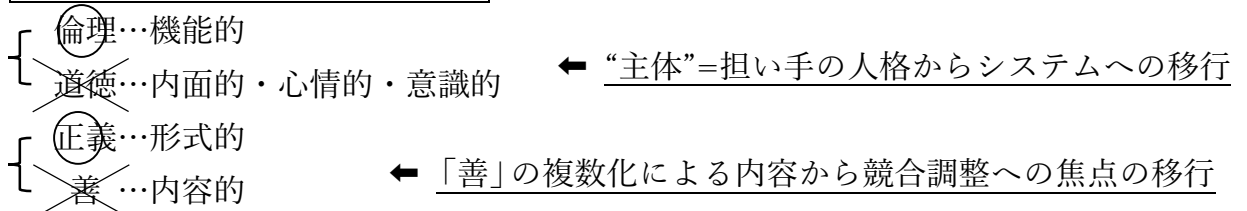
情報社会における倫理

機能的な分化を高度に遂げた、また階層性をフラット化する〈メディア〉的構造を有する情報社会において普遍的な倫理的原理を立てようとすることは予め失敗が運命づけられてる。それは特定の立場の表明以上のものにはなり得ない。

したがって、情報社会における倫理的問いは以下のように定式化できる。

▶ 情報社会において〈倫理〉とはそもそも何であり得るのか？

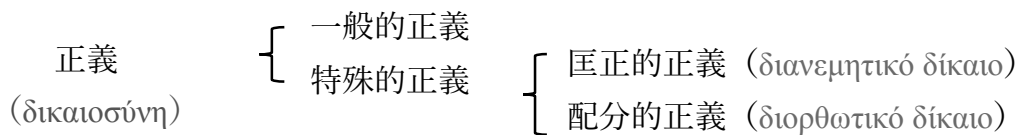
「倫理/道徳」および「正義/善」



情報社会においては、

「善」の複数化と分散化によって、諸「善」間の調整である多元倫理＝〈正義〉論としてのみ〈倫理〉は可能→西垣「正義」論も、或る種の多元倫理の試みとして捉え返せる。

情報社会における〈正義〉



- ・西垣「正義」論の多元性は、「インタラクシオン－組織－包括社会」という規模の多元性に対応する形でそれぞれ「コミュニタリアニズム－ユーティリタリアニズム－リベラリズム」を割り当てる結構になっている。

…アリストテレスの「配分的正義」にあたる。

- ・情報社会の〈包摂/排除〉機制は、包括社会においてシステム「内部」に、“内部”の〈人格〉vs.“外部”の〈個=孤〉人というリソースにおける垂直的分化を生ぜしめている。この非対称性を「匡正」的に恢復する〈正義〉が要請される。それがルーマンの〈正義〉としての「偶発性定式」(Kontingenzformel)であり、デリダの〈正義〉としての「脱構築」(déconstruction)に他ならない。
- ・〈学知〉と〈集合知〉の問題…当方は〈集合知〉を特権化したくない。〈集合知〉は〈学知〉＝für uns との関係において、für es として捉え返したい。